

## 囲いやま森の会 観察記録

2008.6.11 野口 功

日 時： 2008.6.7 (土) 10時～ 天気： 雨

記録・写真： 山田幸子

囲いやまの周りでは少なくなっていましたが、「里山」は、小さい頃見慣れた土地や田圃のイメージがあります。また懐かしさも覚えます。漢字に関する本を読んでみると、(里山の風景を見て心が癒されるのは、田と共に生きてきた先祖たちの遺伝子が、体の中に流れているからでしょう)と記してありました。鬱陶しい雨も、田のため・里山のためと思うと、ありがたいものに感じてきます。この雨で育っていく自然に、元気をもらっています。

- 1) サワフタギは、入り口広場の人家側茂みにあります。今の時期は、青々とした葉をつけています。春先には、白い小さな花をたくさんつけます。毎年花を眺めることを楽しみにしていますが、今年は見逃してしまいました。5月9日に池田さんが撮影してくださいました。ご覧ください。とても綺麗ですよ。花は来年のお楽しみとして、秋には鮮やかな藍色の実をつけますから、ぜひ観察してみてください。
- 2) スズメはとても身近な鳥として、よくみかけます。繁殖期にはつがいで生活し、主に昆虫などを食べます。秋冬は群れて生活し、「スズメのおやど」とよばれる集団ねぐらをつくります。その時期は、主に草の実を食べます。いつも見かけている割には、じっくり観察しないものです。姿が思い浮かびますか？頭は茶色で、頬に黒斑があります。翼は茶と黒のまだらになっています。威嚇・警告・さえずり・地鳴きなど、色々な鳴き声をたて、しぐさも決まりがあるようです。一度観察してみてはいかがでしょうか。
- 3) キノコは識別が難しいものです。囲いやまでも、常に数種類観察できます。前回もカワラタケ・スエヒロタケの他に、キララタケ・ビロードエノキタケ・アラゲキクラゲ・キクラゲなど観察できました。(山口さんの追加記録) 素人の私には、食べるのが怖いキノコが多い中で、アラゲキクラゲとキクラゲだけは馴染みがあります。コリコリとした食感はまさに、クラゲそのものですね。
- 4) オニタビラコは、囲いやまでも良く見かけます。早春から晩秋まで次々と、タンポポによく似た花を咲かせます。キク科の在来種で、人の手が加わったようなところで目にします。春の七草で言われるホトケノザ(実はコオニタビラコ)の仲間です。柔らかな印象の植物です。
- 5) フクロウの姿とフンを確認しました。4日に南広場人家側のミズキの奥から、オカウコギの3mほど上空を、まさに音もなく真一文字に横切り、エノキの奥に飛び去りました。イヌザクラの下で羽を、シロダモの側ではフンを発見しました。羽とフンの写真を、猛禽に詳しい知り合いに調べてもらったところ、フクロウの成鳥のものとのことでした。フクロウは、巣となる洞をもつ大木がある、神社やお寺などで、見られることがある。私がみたフクロウは、何処で暮らしているのでしょうか。

### 開花植物

木本 ムラサキシキブ・ネズミモチ・アカメガシワなど

草本 セイヨタンポポ・ノゲシ・オニタビラコ・ハルジオン・オオイヌノフグリ・タチイヌノフグリ・ヘビイチゴ・カラスノエンドウ・カタバミ・ナズナ・イヌナズナ・ユキノシタ・ハコベ2種・ギシギシ・ヤエムグラ・コヒルガオ・スズメノカタビラ・スズメノテッポウ・ハキダメギク・オヤブジラミ・ドクダミ・オオバコ・ツユクサ・ミチヤナギなど

鳥 ウグイス・シジュウカラ・コゲラ・ヒヨドリ・フクロウ・コジュケイ・ハシブトガラスなど

昆虫 クロウリハムシ・ナミテントウ・アブの仲間・キタテハ・モンシロチョウ・ダンゴムシ・ハナバチの仲間など

キノコ カワラタケ・キクラゲ・そのほか3~4種

クモ ジョロウグモ・クサグモ・オオシロカネグモなど

そのほか エゴノネコアシ・シロダモハコブフシ・アオキミフクレフシ・エノキハトガリタマフシなど

# 囲いやまの森

2008.6.7(土) 曇り 山田幸子

芒種： 稲や麦など穂の出る穀物の種播き・田植えの時期です。  
今年の梅雨入りは6月2日で、平年より6日も早く、梅の実が黄ばみ始めました。



森の緑



フクロウの羽



フクロウの卵



スズメ



ダンゴムシ



オヤフジラミとアリ



オヤフジラミ



サワフタギ



オニタビラコ



ハキダメギク



ナスナ



カラスウリの実



サワラの実



ヘビイチゴ



ウワスミザクラ